

ボランティア活動員への 感謝状贈呈式及び懇談会を実施しました

9月1日(木)に、ボランティア活動員への感謝状贈呈式及びボランティア活動員と病院関係者との懇談会が開催されました。贈呈式では、病院長から継続してボランティア活動に取り組まれている活動員の方々に感謝状が贈られ、日々の活動への感謝が伝えられました。引き続き行われた懇談会では、活動員の方から病院でのボランティア活動内容の報告や要望など、貴重なご意見をたくさんいただきました。



トリアージ(重症度判定)訓練及び除染訓練を実施しました

9月10日(土)に、徳島県内の5消防署の協力のもと、病院職員及び学生約180人による第3回トリアージ訓練を実施しました。「大型バスの事故により、多数の傷病者が本院に搬送される」との想定で訓練を開始しました。負傷メイクを施した約40人の模擬患者に対して、外来棟前駐車場で救急隊による1次トリアージと患者搬送を実施し、外来棟玄関前で搬送された患者に対し、緊急度や重症度を再確認する2次トリアージを実施後に各救護エリアへ搬送しました。職員らは各エリアや災害対策本部と連絡を取りながら、それぞれの役割、多数傷病者の受入対応の流れを確認しました。9月16日(金)には、「工場で揮発性の劇毒物に暴露された化学災害患者が搬送されてきた」との想定で除染訓練を実施しました。救急治療部今中教授の指導のもと、除染システムの立ち上げや模擬患者を除染する訓練を行いました。



「個人情報保護に関する研修会」を開催しました

10月5日(水)、6日(木)に、「個人情報保護に関する研修会」を開催しました。研修会では、「個人情報の安全な管理・運用」というテーマで、本院の病院情報センターの田木技術専門職員による、講演が行われ、約620名の病院職員が耳を傾けました。本院では、一般社会における情報セキュリティやリスクの経緯と現況、医療分野における個人情報保護・情報システムの安全管理、本院における個人情報保護やプライバシー配慮に関する知識・リテラシーを獲得・維持するため、全職員を対象に研修会を毎年開催しています。



「渡航外来」を開設しました

徳島県においては年間約5万人が渡航しており、ボランティアや企業の派遣で開発途上国に長期間赴く人も多くなっています。なかには現地で感染症にかけたり医療機関の受診をするケースも少なくありません。予防接種を渡航前に感染症のリスクに応じて適切に行い感染症を予防します。腸チフスなどの輸入ワクチンが接種可能な病院は四国で唯一です。海外渡航のご予定のある方は、是非ご相談ください。

- 外来日時:毎週金曜日 14:00~16:00(完全予約制)
- 相談先:徳島大学病院 感染制御部ホームページ参照
<http://www.tokushima-ict.com/jp/index.html>

「てんかんセンター」を開設しました

てんかんは人口100人に1人にみられる脳の疾患です。通常は抗てんかん薬による薬物治療で発作はコントロールできますが、薬物によっても発作を抑制できない場合は難治てんかんと呼ばれ、より詳しい検査が必要になります。難治性てんかんを有する場合や診断が難しい場合には、多くの医師による診断、治療方針の決定が必要です。そこで、平成28年12月よりてんかんセンターを開設しました。今後もてんかん患者さんが困らないような診療体制を構築していきます。

「外来栄養サポートチーム」活動を開始しました

外来化学療法室において、化学療法による食欲不振や味覚の変化などの悩みを栄養士が中心となりサポートします。点滴時間内に気軽に相談できるようベッドサイドに伺い、食事の工夫の提案、補助食品のサンプル提供などを行っています。ご希望に応じて別室での対応可能、ご家族・付き添いの方のみでも対応いたします。当日の体調に応じて相談できるよう予約は不要ですので、治療前の診察時等にお気軽にお声掛けください。

市民公開講座のご案内

徳大病院フォーラム 2017春

テーマ:「てんかん〜てんかんを知ろう、徳島大学てんかんセンターの取り組み」と「がん〜ここまでできているがん治療」

【日時】平成29年2月11日(土)
13:00~16:45

【場所】徳島大学蔵本キャンパス
(大塚講堂)

【参加費】無料(聴講券が必要)

【問合せ】徳島新聞社
企画推進部
tel.088-655-7407
(平日9:30~17:30)

徳島アレルギー フォーラム2017

【日時】平成29年2月12日(日)
13:30~16:00

【場所】ふれあい健康館

【参加費】無料

【問合せ】呼吸器・膠原病内科
医局 tel.088-633-7127

治験を実施しています



現在、開発中の医薬品の候補（治験薬）を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思いますので、**お気軽にお問い合わせください。**

- 慢性血栓塞栓性肺高血圧症
- 肺癌
- 全身性強皮症を伴う間質性肺炎
- 糖尿病性末梢神経障害
- 多発性骨髄腫
- 悪性リンパ腫
- 骨髄異形成症候群
- 腎癌
- 前立腺癌
- 尿路上皮癌
- 子宮頸癌
- 多発性骨髄腫
- 脳卒中後上肢痙縮
- 脳卒中後下肢痙縮
- 食道癌
- 過活動膀胱
- 神経因性排尿筋過活動
- 掌蹠膿疱症
- 特発性肺繊維症
- 術後疼痛



問合せ：
臨床試験管理センター
tel.088-633-9294

ちけん君は
日本医師会治験促進センターの
キャラクターです。

病院のお仕事いろいろ



退院後の生活を見据えた
脳卒中看護に取り組む

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師（脳卒中センター）

野崎夏江（のざき・なつえ）さん
看護師

野崎さんは、石川県の病院の循環器・脳神経外科の病棟で働いている時に「もっと患者さんの回復に役立てるよう知識をつけたい」との意志を持ち、認定看護師の取得を目指しました。認定看護師の資格を取ってからは、自分の知識や技術を向上させることだけでなく、周りのスタッフへの指導を行うことを意識するようになりました。その後、上級の資格である専門看護師の資格取得を目指すため、徳島大学大学院へ進学し、徳大病院で働くことを選びました。配属された脳卒中センター（以下、SCU）で以前の病院とは異なることは、重度の患者さんが救急車から直接運ばれてくることです。少しでも早く処置に取りかかることは脳卒中の治療にとって重要です。また、医師からの離床（横臥から座位、立位、歩行へ）の指示がとても早いことに驚きました。SCUでは専属の理学療法士によるリハビリテーション（以下、リハ）が行われ、早期離床を目指しています。SCU看護師として、早期離床は患者さんへの負担も大きいいため、血圧や体温など身体全体の状態を把握し、リハを行ってよいかの判断を行っています。退院を目指すことだけでなく、その後の生活のために、患者さんやご家族がリハに積極的に取り組んでもらえるよう、早期離床の必要性を説明し、環境を整えています。今後の抱負について、「患者さんを中心とした周りの人々や環境のことを急性期から考えて看護を行うよう同僚に指導を行っていきたい。」とお話いただきました。